

行政視察報告書

総務委員会行政視察

平成30年8月1日(水)～3日(金)

視察先 及び 視察事項	・平成30年8月1日(水)	
	福岡県北九州市	1 スタジアム整備事業について
		(1) スタジアム整備の経緯、施設の概要
		(2) PFI事業によるスタジアム整備
		ア PFI等の事業方法の検討について
		イ 同事業に係る特定事業の選定に当た る客観的評価について
		ウ PFI事業による整備後の市全体への効 果と課題について
	・平成30年8月2日(木)	1 鹿児島市・松本市文化・観光交流協定について
	鹿児島県鹿児島市	(1) 職員交流事業
		(2) 観光未来戦略(都市間交流を中心に)
		2 世界文化遺産登録について
		(1) ユネスコ世界遺産委員会への対応
		(2) 市民との協働行動計画の推進
		(3) 受入体制の整備

福岡県北九州市

1 (1) 関係団体からの要望、北九州市スポーツ振興審議会からの提言、Jリーグチーム「ギラヴァンツ北九州」の誕生などによりスタジアム整備のきっかけとなった。

外部評価委員会の2回の公共事業評価手続きを経て収容人数1万5000人(将来的に2万人以上に拡張可能)、新幹線小倉駅から徒歩7分の場所にPFI手法により平成29年に完成

1 (2) 公共施設などの建設、維持管理、運営などを民間の資金、経営能力及び技術的能力を活用して行う手法であり、事業者が資金調達を行い、施設を建設し、その所有権を公共に移転した上で、事業者が契約期間にわたり維持管理運営を行うPFI事業BTO方式を採用した。採用理由としては、設計・建設の一括発注、性能発注によるスケールメリット建設費の削減、民間資金を活用するため、市財政の支出の平準化が可能などの経済性、展示場、国際会議場、ホテルなどの周辺施設との連携において、民間のノウハウを有効に活用することで、より魅力的な施設づくりなどのまちづくり、自主事業への期待などである。整備の効果としては、市のシンボル施設として、市民が誇れる魅力ある施設となることで、市民の気持ちを一つにするという一体感が醸成され、

<p>まちの賑わい創出や、市のイメージアップ、PR効果、子どもたちの夢やあこがれの施設となることで、スポーツを通じた青少年の健全育成、国内外の交流を進める場所となる、またチケットや交通費、グッズ購入などの観戦者消費による消費経済効果が見込まれる。</p>
<p>鹿児島県鹿児島市</p>
<p>1 (1) 城下町としての歴史と自然環境を有する鹿児島市と松本市が、平成24年9月16日文化・観光交流協定を締結したことを契機に、更なる交流と相互理解を深めるため職員を派遣し、政策形成能力の向上など人材育成を図ることを目的に平成27年度より鹿児島市から健康福祉部福祉計画課、商工観光部健康産業・企業立地課に4名、松本市から市民局市民文化部文化振興課、環境局環境部環境政策課、観光交流局観光交流部観光プロモーション課に3名が人事交流している。</p>
<p>1 (2) 第3期鹿児島市観光未来戦略は計画期間平成29年度～平成33年度、基本目標を鹿児島の経済成長のエンジンとなる観光の実現としている。その中の横断的に取り組む3つの強化プロジェクト、広域連携の強化プロジェクトの②超広域での連携の中で都市連携の協定がある札幌・松本市等と連携し、多様な気候や文化などを楽しめる超広域観光ルートの創出が掲げられている。</p>
<p>2 (1) 関係自治体の連携のもとに、世界遺産への登録を推進するために平成20年10月鹿児島県知事を会長とする世界遺産登録推進会議を設置。平成21年1月ユネスコ世界遺産暫定一覧表へ追加記載、平成26年1月ユネスコへ推薦書提出、平成27年ユネスコ世界遺産委員会において登録決定</p>
<p>2 (2) かがしま近代化産業遺産協働行動計画を市民やNPO、事業者、行政などさまざまな立場の人々が協力して保存・活用し県内外にその魅力を伝えつつ将来へ引き継いでいくために策定。学習・普及啓発、保存管理・調査研究、受入態勢整備、活用・地域活性化、情報発信などの取り組み方針が示されている</p>
<p>2 (3) 登録を見据えて誘導サイン版、解説版の設置、道路案内標識の設置、駐車場の設置、多言語化によるガイドブックの作成、観光ボランティアの配置、登録後は公衆無線LANの整備など外国人観光客への対応、世界遺産登録関係団体共通デザインの道路案内標識の設置</p>
<p>平成30年 8月26日</p> <p>松本市議会議長 上條 俊道 様</p> <p style="text-align: right;">総務委員会委員 川久保 文良</p>